

衆議院安全保障委員会ニュース

【第211回国会】令和5年3月23日（木）、第3回の委員会が開かれました。

1 防衛省設置法の一部を改正する法律案（内閣提出第19号）

- ・ 浜田防衛大臣、山田外務副大臣、木村防衛大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・ 赤嶺政賢君（共産）が討論を行いました。
- ・ 採決を行った結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成一自民、立憲、維新、公明、国民 反対－共産）
（質疑者）小泉進次郎君（自民）、重徳和彦君（立憲）、伊藤俊輔君（立憲）、源馬謙太郎君（立憲）、浅川義治君（維新）、美延映夫君（維新）、斎藤アレックス君（国民）、赤嶺政賢君（共産）

（質疑者及び主な質疑事項）

小泉進次郎君（自民）

（1） 陸上自衛隊高等工科学校

- ア 卒業式に出席した浜田防衛大臣の所感
- イ 卒業式への防衛大臣の出席を通例化していく必要性
- ウ 高等工科学校、陸上自衛隊通信学校及び防衛大学校でのサイバー教育基盤の拡充に対する防衛省の取組方針
- エ 陸海空自衛隊の共同化及び男女共学化についての今後のスケジュール
- オ 女子生徒の受入れ開始時期

（2） 岸田内閣総理大臣のウクライナ訪問に関して、安全を確保しながらの事前の調整及び当日の訪問について苦労した事項

重徳和彦君（立憲）

（1） 岸田内閣総理大臣のウクライナ訪問

- ア 訪問の目的と成果
- イ 訪問の準備開始時期
- ウ 訪問の準備に際して中国及びロシアの動向を意識したことの有無
- エ 中国及びロシアの関係強化に対する外務省の危機感の有無

（2） 日韓関係

- ア 安全保障の分野における日韓首脳会談の成果
- イ 韓国の野党勢力が日韓関係の改善に向けて障害となる可能性についての山田外務副大臣の認識
- ウ 日本国政府としての韓国野党及びその支持層との向き合い方
- エ 韓国との議員外交及び政府間外交の関係についての山田外務副大臣の見解
- オ 「日本は既に数十回にわたり、私達に歴史問題について反省と謝罪を表明している」との尹韓国大統領発言に対する山田外務副大臣の評価
- カ オの発言において「数十回」との表現を用いた尹韓国大統領の意図

（3） 日韓GSOMIA

- ア これまでに交換された情報の内容及び情報共有の頻度
- イ 正常化されたことによる実質的な機能の変化

（4） 日韓関係を安全保障面で前進させていくための今後の課題及び取組

（5） 韓国軍による自衛隊機への火器管制レーダー照射問題の解決方法及び問題解決後における日韓の防衛協力の在り方

(6) イー・システム搭載艦の維持費の検討状況

伊藤俊輔君（立憲）

- (1) サイバーセキュリティ人材の確保
- ア 自衛隊のサイバー要員を拡充する方策及び自衛官全体の実数を増加させるために今後取り得る具体的施策に関する浜田防衛大臣の見解
 - イ サイバー人材育成に係る予算の規模及び今後育成するサイバー要員のレベルに関する防衛省の見解
 - ウ サイバー人材の官民交流のためのプラットフォーム構築の必要性及びその際に必要な情報保全のためのセキュリティ・クリアランスに関する防衛省の見解
 - エ 防衛省における民間のサイバーセキュリティ関連教育機関についての調査及び把握の現状
- (2) FMS調達による装備品の取得
- ア FMS調達を含む我が国の装備品調達の原理・原則
 - イ 我が国のFMS調達の費用対効果を含む適正性
 - ウ ライフサイクルコストを含まない43兆円の防衛関係費の費用対効果についての検証の妥当性
 - エ 未納入、未精算問題の改善に関して大臣レベルでの具体的・継続的な働きかけを行う必要性
 - オ 国会が秘密会を通じてFMS調達の課題を政府と共有する必要性

源馬謙太郎君（立憲）

- (1) 日米間の相互政府品質管理に係る枠組み
- ア 同枠組みの締結をこれまで行わなかった理由
 - イ 会計検査院の指摘以前における同枠組み締結の必要性についての認識の有無
 - ウ 減免対象となる契約管理費だけでなく一般管理費、梱包費、輸送費などについても低減させる余地の有無
 - エ FMS調達の未納入、未精算問題の現状
- (2) 自衛官の定数の変更
- ア 我が国防衛に対する現在の自衛官定数の妥当性
 - イ 我が国にとって望ましい自衛官の人員に関する浜田防衛大臣の認識
 - ウ 常備自衛官補完のために予備自衛官を活用していく方針についての浜田防衛大臣の見解
 - エ 具体的な予備自衛官制度の見直しの方向性
 - オ 予備自衛官の訓練を短縮するのをやめるとともに、技能に合った効果的な訓練となるよう、その内容を見直していく必要性に対する浜田防衛大臣の見解
- (3) 気球への武器使用要件の緩和
- ア 気球への武器使用の要件緩和をこのタイミングで行った理由
 - イ 気球が航空機の定義に該当することの当否及び外国のものとの判別方法

浅川義治君（維新）

- (1) サイバー防衛
- ア サイバー分野における民間人材の採用状況及び今後の取組方針
 - イ サイバー攻撃による基幹インフラ等への損傷のみで武力攻撃を受けたと認定する可能性
 - ウ 自衛隊のサイバー関連部隊がサイバー攻撃に対して反撃を行うことの可否
 - エ サイバー攻撃への対応基準の策定の有無

- オ エの基準についての防衛大臣決裁の有無
- (2) 航空自衛隊の定数減によるスクランブル実施体制への影響の有無
- (3) 岸田内閣総理大臣がウクライナ訪問に際して利用したチャーター機に対する護衛の有無
- (4) 識別不能飛行物体への対応
- ア 日本領空において識別不能飛行物体を確認した記録の有無
- イ 令和2年9月の防衛大臣指示以前に識別不能飛行物体を確認した記録の有無
- ウ 識別不能飛行物体を確認した未発表の記録の有無
- エ 識別不能飛行物体の記録の有無についての政府の説明を後から訂正する事態が再び発生する可能性

美延映夫君（維新）

- (1) 自衛隊におけるサイバー要員の確保
- ア 自衛隊におけるサイバー要員確保に際しての内部での育成又は民間人材の活用の重点の置き方
- イ 検討中の新たな自衛官制度におけるサイバー要員への身体面での訓練等についての扱い
- ウ 自衛隊サイバー防衛隊で勤務している事務官等の任務及び役割
- (2) 現に国家間で行われているサイバー攻撃及び防御の行為は武力の行使に該当しないとの認識の正否
- (3) 現・内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）と同センターを改組して新設するサイバー安全保障政策を一元的に総合調整する組織との相違点及び「一元的に」との言葉の意味

齋藤アレックス君（国民）

- (1) 岸田内閣総理大臣のウクライナ訪問
- ア 今回の訪問の我が国安全保障上の意義についての浜田防衛大臣の認識
- イ 今回の訪問が一部で事前に報じられた理由等についての外務省の見解
- ウ 事前に報道されたことについての人命保護上の問題の有無
- (2) サイバーセキュリティ
- ア 我が国におけるサイバーセキュリティ専門人材の不足の状況及び政府の対応
- イ 一般の高校や大学でサイバーセキュリティ専門人材を養成できるようにするために浜田防衛大臣がリーダーシップを発揮する必要性
- ウ 部外のサイバーセキュリティ専門人材の活用のためにセキュリティ・クリアランスの制度を設ける必要性についての浜田防衛大臣の認識
- エ セキュリティ上の懸念のあるT i k T o kなどのアプリケーションの防衛省・自衛隊における利用の制限状況
- (3) 防衛省・自衛隊においてセクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントは許さないという浜田防衛大臣の決意

赤嶺政賢君（共産）

- (1) イージス・システム搭載艦の整備
- ア イージス・システム搭載艦の経費が、イージス・アショアで見込まれていた経費を既に上回っている理由
- イ 改修に要するコストを理由にイージス・アショアの導入を断念したにもかかわらず、イージス・システム搭載艦の経費が膨らんでいることの矛盾
- ウ イージス・システム搭載艦の整備に伴い港湾施設の整備が必要となる理由並びに整備の規模及び予定地

- エ イージス・システム搭載艦の整備を一旦中止し、計画の全体像を国民に示す必要性についての浜田防衛大臣の見解
- (2) 米軍のオスプレイの那覇港湾施設への陸揚げ
 - ア オスプレイの陸揚げについて沖縄防衛局が那覇市には事前に通報する一方で、沖縄県には事前に通報しなかった理由
 - イ オスプレイによる那覇港湾施設の使用に反対する沖縄県に事前に通報しなかったことは差別であるとの指摘に対する浜田防衛大臣の見解
 - ウ 安全確保のため全ての自治体に通報すべきであったとの考えを浜田防衛大臣も有しているとの認識の当否
 - エ 米軍が運用に関してこれまでも明らかにした場合もあることも踏まえて、米側に公平な情報提供を求めていく必要性についての浜田防衛大臣の見解